

「結果の分析と指導の改善」

【国語】 < 小学校 第5学年 >

1 結果のポイント

「話すこと・聞くこと」について、話の内容の中心に気を付けて聞くことや、司会として考えの共通点や相違点を考えて内容を整理して話合いを進める力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

目的に応じて、理由や事例などを挙げ筋道を立てて話す力をみる問題では、正答率が80%を下回っている。

「書くこと」について、書く必要のある事柄を選択する力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

段落相互の関係を考えて書く力や書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く力をみる問題では、70%程度である。特に、表から分かることと、意見や理由を区別して決められた字数で書く力をみる問題では、40%を下回っている。

「読むこと」について、段落相互の関係を正しくとらえる力や段落の中心となる文をとらえて内容を正しく読む力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

段落の記述の細かい点に注意しながら内容を正しく読む力や、叙述に基づいて考えをまとめる力をみる問題では、正答率が70%程度である。

「言語事項」について、ローマ字で表記されたものを正しく読む力をみる問題は60%程度である。

漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が70%程度の問題もある。

2 結果の分析と指導方法の工夫改善

(1) 正答率が高いが、留意しなければならない問題の例

「書くこと...書く必要のある事柄を選択することができる。」

基礎学力UPのカギとなる問題

~「つまずき」とその解決策をさぐる~

< 問題 >

田中さんはまず、「クラスの読書生活」について調べようと考えました。このとき、調べる必要がないことはどれですか。正しいものを、次のア~エの中から一つ選び、その記号をの中に書きましょう。

- ア クラスのみんなが、家でどれくらいの時間本を読むか。
- イ クラスのみんなが、図書館でどれくらい本をかりるか。
- ウ クラスのみんなが、家でどのように本をかたづけているか。
- エ クラスのみんなが、図書館でどのような種類の本をかりるか。

< 結果 > (一) 正答率 84.8% (正答...ウ)

< 分析 >

この問題は、「クラスの読書生活」について知らせる文章を書くために、書く必要のある事柄を選択する力をみる問題である。正答率は80%を超えているが、0.6%程度の無解答がみられた。選択肢が示され、解答しやすい問題であるにもかかわらず、無解答が他の設問に比べ若干多く見られることに留意する必要がある。また、誤答としてはアやエを選択した児童が若干みられる。

この要因としては、問いが「調べる必要がないことはどれですか」という形式であるため、誤って「調べる必要があること」と理解をしたことが考えられる。しかし、無解答であることは、むしろ次の二点が問題になると思われる。一つは、書く必要のある事柄が何か判断できないこと、もう一つは、読書生活について理解できていないことである。まず、書く必要のある事柄が何か判断できないことについては、「書くこと」の指導において、事柄の選択にかかわる指導が軽視されてはいないかという点が指摘される。調べることについての発想を広げることについては指

導が行われるが、一方で、主題や要旨に合わせて書く事柄を絞ることや、集めた材料が話題に合うか合わないかを確かめる指導は、必ずしも行われていないことが要因の一つではないかと考えられる。また、読書生活について理解できていない点は、「書くこと」にかかわる力ではないが、小学校5年生までの国語学習において、読書生活がどのような内容を意味する言葉であり、自分自身の生活と関連付けてイメージできるようにしてあることが求められる内容である。

< 指導方法の工夫改善 >

「相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を整理する」よう指導する。具体的には、モデルとして書く上で必要な事柄の例を示し、それが必要と判断できる理由を考えさせることや、必要な事柄とともに不必要と判断できる事柄の例も含めて示し、相手や目的に応じた事柄を整理するよう指導する。

3・4年「おもしろいもの、見つけた」、「新聞記者になろう」などの学習において

- ・例えば、「おもしろいもの、見つけた」では、知らせたいことを整理する学習として、教科書で例示された項目の他に、相手や目的には合わない項目「マンホールがある理由」や「マンホールの仕組み」などを示し、相手や目的に応じているかどうかを判断できるよう指導する。
- ・また、「新聞記者になろう」では、「いつ、どこで、だれが、何を、どうした」が大切であることを確認するとき、正しく伝えるという目的や、具体的な事実を知らない人が相手であることに応じた内容であることが理解できるよう指導する。

5・6年「工夫して発信しよう」などの学習において

- ・相手や目的に応じた事柄を、よりの確に判断するために、文章の構成や記述方法との関係を考えて整理をするよう指導することが大切になる。例えばパンフレットやリーフレット、報告文や意見文といった形式によって、記述する必要がある内容や、記述できる項目が決まることを学習できるように配慮することが必要である。

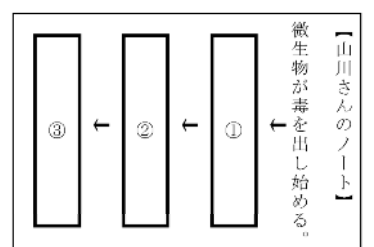
(2) 正答率が低く、留意しなければならない問題の例1

「読むこと...段落の記述の細かい点に注意しながら内容を正しく読むことができる。」

< 問題 >

山川さんは、本文に書かれている白血球の働きについて、次のようにノートにまとめることにしました。

に入る組み合わせとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号をの中に書きましょう。



< 結果 > (三) 正答率 65.2% (正答...エ)

< 分析 >

この問題は、説明文で述べられている「白血球の働き」について、ノートに要点をまとめる力をみる問題である。段落相互を理解し中心をとらえることや、述べられている順序を正しく理解することを確認している。正答率は65%にとどまり、誤答としては、イを選択した児童が多かった。

この要因としては、次の三つが考えられる。一つ目は、文章中に述べられた内容はとらえることができるものの、述べられている順序についての意識が十分ではないこと。二つ目は、文と文の関連を正確に理解できないことである。ここでは、前の文と同じ主語であるため、主語が省略されている。その主語を補い理解をする必要がある。こうした理解が十分にできないことが問題と考えられる。三つ目は、選択肢が多いために混乱をしたり、文章での確認が不十分なまま解答してしまったりしたことが考えられる。

< 指導方法の工夫改善 >

順序を示す言葉に着目させるとともに、書かれた内容がその順序に応じた内容になっているかを確認する。その際、指示する言葉が指し示している内容についての指導をする。

3・4年「『かむ』ことの力」などの学習において

・「『かむ』ことの力」の学習において、よくかむとよいことが、いくつ取り上げられているのかを確認する。その際、指示する言葉が指し示している内容を確認することで、取り上げられている事例のまとまりを理解できるようにする。さらに、取り上げられている意味や意図を考えることで、順序について確認するなどの工夫が考えられる。

5・6年「ニュース番組作りの現場から」などの学習において

・筆者が伝えようとしたニュース番組作りの手順や考え方について、的確に押さえるとともに、伝えようとした内容が、富士山の噴火に備えた避難訓練という事例やそれにかかわる事実により効果的に伝わったのか、また説明する時間的順序を基本とした構成や表現は的確であったのかということについての学習が考えられる。

(3) 正答率が低く、留意しなければならない問題の例2

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項…ローマ字の表記を正しく読むことができる。」

< 問題 >

次のローマ字の読みを、例を参考にして□にひらがなで書きましょう。

sima	→	しま	kitte	→	□
------	---	----	-------	---	---

< 結果 > 目 (一) 正答率 62.7% (正答…きって)

< 分析 >

ローマ字の表記を正しく読むことができるかをみる問題である。正答率が60%程度にとどまっているだけでなく、解答を記入していない児童が10%近くもあった。

この要因としては、ローマ字の学習において、拗音や促音について習得し、繰り返し復習する時間が確保できなかったり、学習後にローマ字を活用する機会を設定していなかったりすることなどが考えられる。

< 指導方法の工夫改善 >

他教科や総合的な学習の時間との連携を図り、ローマ字を活用する機会を適宜設定するとともに、拗音や促音などの混乱しがちな表記について指導する。

国語の授業において、ローマ字の学習を確実に行うとともに、総合的な学習の時間におけるパソコン操作等、ローマ字を活用する授業との関連を図り、学習した内容を実際に使うことで定着させるよう配慮する。また、その都度、拗音や促音など混乱しがちな表記について、確認する必要がある。

3 分析を踏まえた指導改善事例

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16~H18)及び授業改善推進プラン(H19~H21)」を参照する。(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)

- | | |
|---|---|
| 例 | : 平成16年度 第6学年「自然を守る」 |
| | ・文章の構成をもとにして、中心となる文を見付け、小見出しとなるよう表現を加除する指導の実践 |
| 例 | : 平成17年度 第3学年「すがたをかえる大豆」 |
| | ・要旨をとらえながら、段落の内容と順序の関係を確かめる実践 |

